

テーマ

各国柔道人の「柔道観」について

適用
分野

各国の柔道人の「柔道観」
についての国際比較研究



研究
名称

各国柔道人の「柔道観」について

氏名
所属

山崎俊輔 教授
共通教育センター

内容

●特徴

各国の柔道実態調査を行うとともに、柔道人の持つ「柔道観」についての研究報告を行う。

●研究内容

柔道には、競技だけでなく心身の鍛錬性や道徳性といった人間教育としての価値が求められている。このような「教育的価値」を体系づけたのは、創始者の嘉納治五郎であり、さらに彼が、個人的な人間成長のレベルを超えて、社会的な融和の精神（自他共栄）を唱えていたことはよく知られている。そこで、柔道のアイデンティティ（存在価値）の問題として、競技における世界的な普及という側面に目を奪われるだけでなく、柔道がもつ「教育的価値」が今日の世界の実践者にどのように理解され、受け入れられているかという側面についても、我々は常に留意していかねばならないと考える。著者らは、これまでにフランス（1982、2001、2012）、中国（1988）、イギリス（1990）、ニュージーランド（1998）、ケニア（1998）、アメリカ（2000）、スイス（2002）、オランダ（2004）、ザンビア（2006）、ギニア、カメルーン（2008）、ブータン（2014）、カナダ（2016）と各国柔道人（一般）

「一般とは、選手、指導者、愛好者等を含め、全ての柔道実践者を総称する。以下、一般と表示」の実態調査を行うとともに、柔道人の持つ「柔道観」についての研究報告を行ってきた。それらを総じていえば、柔道の「教育的価値」に対する反応には一定の共通性が認められるものの、各国独自のスポーツ観による相違もあることが明らかにされてきた。各国の柔道人の「柔道観」について究明し続けることは、ますます国際化される柔道の進むべき道を考え、また柔道がどのように社会に貢献できるかを探るためにも不可欠であると考える。



キーワード

各国柔道人の柔道観、国際化、精力善用、自他共栄